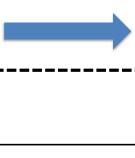
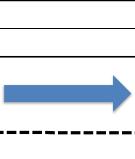
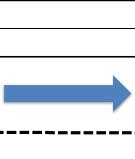
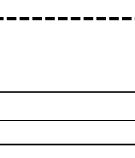
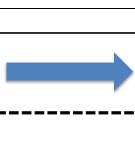
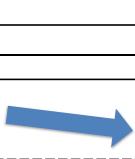
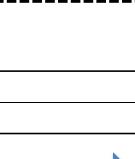
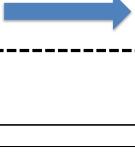
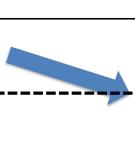
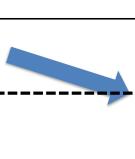
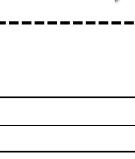
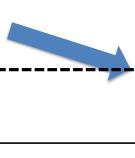
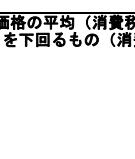


野菜の需給・価格動向レポート（平成29年12月4日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	10月の価格情報		11月の価格情報		11月中旬の関東・近畿 及び近畿ブロックの 入荷量 () 内は、本年と過去 3カ年平均値との比 率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し			
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の 関東・近畿 ブロック 旬別平均販 売価額	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の 関東・近畿 ブロック 旬別平均販 売価額			「図の見方」			
		下旬		上旬			平均価格	見通しの価格水準		
葉茎類	キャベツ	74.19	59 (80%)	72.93	84 (116%)	91 (125%)	・6,840t (94%)	愛知(56), 千葉(25)		愛知産は、天候回復に伴い、台風による下等級品の発生は減少し、秀品率も上昇しつつあり、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、台風による塩害により、L玉比率が低いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		88.91	65 (73%)	76.91	86 (112%)	100 (130%)	・1,870t (82%)	愛知(63), 兵庫(10), 大阪(8)		愛知産の出荷は平年並みと見込まれるもの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	たまねぎ	93.34	68 (73%)	83.77	71 (84%)	73 (87%)	・7,595t (100%)	北海道(97)		北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、12月出荷分から中生品種への切り替え時期となるが、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		93.34	71 (76%)	83.77	74 (88%)	77 (92%)	・2,969t (97%)	北海道(87), 兵庫(12)		北海道産の出荷は平年並みと見込まれるもの、市場在庫もあることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	136.25	379 (278%)	136.25	317 (233%)	294 (216%)	・2,553t (101%)	千葉(25), 埼玉(19), 群馬(14), 茨城(13)		千葉産、埼玉産及び群馬産は、台風により倒伏や曲がり等が発生し、細ものが増加するなど正品率に影響がでており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、台風により葉折れ等が発生し、正品率に影響がでおり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		467.01	399 (85%)	467.01	782 (167%)	706 (151%)	・142t (82%)	徳島(26), 三重(19), 奈良(19), 高知(12)		千葉産、埼玉産、群馬産及び茨城産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	はくさい	56.81	61 (107%)	40.32	56 (140%)	68 (169%)	・5,840t (104%)	茨城(96)		茨城産は、台風による浸水被害で、根のハリが弱く肥大遅れが発生しているが、11月の天候回復もあり、生育は概ね順調なことから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。
		69.44	64 (92%)	55.95	77 (139%)	91 (163%)	・1,163t (76%)	茨城(33), 愛知(17), 和歌山(10), 兵庫(8)		茨城産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるもの、気温の低下もあり鍋物需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	ほうれんそう	385.11	647 (168%)	385.11	881 (229%)	855 (222%)	・419t (49%)	群馬(44), 茨城(21), 千葉(13)		群馬産及び茨城産は、10月の豪雨天等による生育不良により細株が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、台風により特に露地作の品質低下がみられる事から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		461.74	721 (156%)	461.74	1006 (218%)	849 (184%)	・188t (50%)	徳島(47), 福岡(19), 群馬(11), 岐阜(10)		群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	レタス (結球)	158.27	148 (93%)	143.63	271 (189%)	298 (207%)	・2,071t (55%)	静岡(30), 香川(15), 茨城(14), 兵庫(12)		静岡産及び兵庫産は、11月の好天で生育は回復しているものの、長雨及び台風による定植及び生育遅れに加え、正品率の低下も見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。香川産は、台風及び長雨による定植遅れがみられたものの、11月の好天で生育は回復傾向で、品種の切り替わりもあることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、低温や台風による降雨で、生育遅れや正品率の低下がみられるものの、11月の好天で回復傾向であることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		152.57	165 (108%)	154.61	294 (190%)	280 (181%)	・706t (64%)	兵庫(46), 徳島(21), 香川(10), 長崎(9)		香川産及び茨城産の出荷が平年よりやや少なめになると見込まれるもの、静岡産及び兵庫産の出荷が少なめと見込まれ、また、業務需要もあることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
果菜類	きゅうり	289.03	597 (207%)	289.03	509 (176%)	365 (126%)	・2,955t (107%)	富崎(37), 千葉(19), 高知(15), 埼玉(13)		富崎産は、11月の好天により生育及び作柄は順調である事から、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、11月に入ってからの低温により、生育が鈍く、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。高知産は、10月の長雨や台風から回復基調にある事から、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。埼玉産は、出荷終盤となっており、生育も順調で、作柄も良いことから、引き続き平年並みのまま12月末に出荷終了の見込み。
		298.96	661 (221%)	298.96	523 (175%)	353 (118%)	・850t (97%)	宮崎(51), 高知(22), 徳島(9)		千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、宮崎産、高知産及び埼玉産が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	トマト (大玉)	347.41	336 (97%)	347.41	351 (101%)	369 (106%)	・3,022t (93%)	熊本(47), 愛知(16), 栃木(13)		熊本産は、日照不足により生育遅れがでておらず、現在少なめの出荷となっているものの、天候の回復により、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。愛知産は、11月中旬からの豪雨及び低温により、生育や着色遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、10月中旬の豪雨と11月からの低温により、生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		371.67	362 (97%)	371.67	385 (104%)	377 (101%)	・1,048t (96%)	熊本(76)		熊本産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるもの、愛知産及び栃木産の出荷が平年よりやや少なめの出荷と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	なす	301.00	353 (117%)	301.00	480 (160%)	508 (169%)	・807t (93%)	高知(64), 福岡(17)		高知産は、台風、気温低下等により、生育遅れが発生しているものの、11月の好天により生育も回復基調にあることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。福岡産は、生育は概ね順調で品質もよいことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		263.21	373 (142%)	263.21	490 (186%)	492 (187%)	・344t (103%)	高知(42), 熊本(25), 福岡(19), 岡山(11)		高知産及び福岡産の出荷は平年並みに回復又は平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
	ピーマン	263.58	366 (139%)	378.83	606 (160%)	593 (157%)	・709t (75%)	宮崎(36), 茨城(30), 高知(18)		宮崎産は、8月の低温及び10月の豪雨天により着果不良がみられたものの、11月の好天で生育は概ね良好なことから、現在少なめの出荷は、今後はやや少なめの出荷の見込み。茨城産及び高知産は、11月の好天で、促成作の生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		296.27	359 (121%)	371.29	597 (161%)	578 (156%)	・332t (89%)	宮崎(43), 高知(24), 鹿児島(13)		宮崎産の出荷がやや少なめになると見込まれ、茨城産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
根菜類	だいこん	67.55	89 (132%)	67.55	83 (122%)	96 (142%)	・4,012t (71%)	千葉(47), 神奈川(45)		千葉産は、台風による塩害等で、生育遅れや下等級品の発生がみられる事から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。神奈川産は、台風により、10日から2週間ほど生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		76.48	96 (126%)	76.48	99 (129%)	100 (130%)	・1,904t (81%)	和歌山(30), 長崎(25), 徳島(19), 鹿児島(17)		千葉産及び神奈川産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	にんじん	123.08	84 (68%)	105.86	118 (112%)	134 (127%)	・3,327t (89%)	千葉(80)		千葉産は、10月の日照不足により、地下部の生育遅れがでて小ぶりとなっているものの、本年は豊作基調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		123.11	84 (68%)	104.49	132 (126%)	136 (130%)	・1,670t (118%)	長崎(50), 鹿児島(14), 鳥取(13), 千葉(9)		千葉産の出荷は平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 別別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg。上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聽き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	10月の価格情報		11月の価格情報		11月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の 関東・近畿 ブロック 旬別平均販 売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の 関東・近畿 ブロック 旬別平均販 売価額			「図の見方」	
		下旬	上旬	中旬			平均価格	現時点の価格水準
いも類	さといも	220.97 (121%)	268	220.97 (123%)	271 (117%)	259 (101%)	埼玉(60), 千葉(14)	
		217.56 (154%)	334	217.56 (139%)	303 (127%)	275 (132%)	愛媛(36), 福井(26), 静岡(10)	
	ばれいしょ	96.99 (91%)	88	96.99 (92%)	89 (95%)	92 (100%)	北海道(80)	
		96.99 (88%)	85	96.99 (87%)	84 (90%)	87 (112%)	北海道(84), 長崎(16)	

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜價格安定法人、卸売会社等からの聽き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	10月の価格情報		11月の価格情報		11月中旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
	(参考)過去5カ年 平均価格	東京都・大 阪市場の 旬別価格	(参考) 過去5カ年 平均価格	東京都・大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率			「図の見方」	
		下旬	上旬	中旬			平均価格	現時点の価格水準
洋菜類	ブロッコリー	408.61 (119%)	485	302.07 (167%)	503 (133%)	401 (101%)	・808t (101%)	愛知(24), 香川(24), 埼玉(18),
		424.92 (115%)	487	369.86 (160%)	592 (122%)	452 (98%)	・214t (98%)	鳥取(26), 徳島(24), 米国(11), 長崎(9)
根菜類	ごぼう	252.90 (113%)	287	247.06 (110%)	271 (97%)	240 (113%)	・342t (113%)	青森(63), 茨城(16)
		173.20 (115%)	200	179.28 (100%)	180 (95%)	171 (85%)	・173t (85%)	茨城(51), 青森(16), 北海道(16)
	かぶ	138.24 (92%)	127	123.51 (138%)	171 (151%)	186 (68%)	・332t (68%)	千葉(83)
		203.64 (89%)	182	146.85 (150%)	220 (162%)	238 (64%)	・61t (64%)	福岡(28), 徳島(22), 石川(21)

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸入動向 一 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について 一

○輸入について	野菜の輸入数量						野菜の輸出数量																				
	野菜全体の輸入量(平成29年10月)						野菜全体の輸出量(平成29年10月)																				
区分	平成27年		平成28年		平成29年10月		平成29年1~10月		区分	平成27年		平成28年		平成29年10月		平成29年1~10月											
	前年比		前年比		前年同月比		前年同期比			前年比		前年比		前年同月比		前年同期比											
主な生鮮野菜の輸入先(平成29年10月)																											
区分	輸入合計			1位			2位			3位			輸出合計			1位											
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	前年比	国名	数量	国名	数量	国名								
生鮮野菜	826,845	93	862,416	104	50,055	89	713,473	102	生鮮野菜	22,992	240	31,867	139	6,604	306	15,653	66	加工野菜	9,510	121	11,101	117	1,405	127	9,562	110	
加工野菜	1,752,337	98	1,768,892	101	150,146	105	1,563,921	108	野菜合計	2,579,182	97	2,631,308	102	200,202	93	2,277,394	106	野菜合計	32,502	186	42,968	132	8,009	246	25,215	78	
うち中国産野菜合計	1,355,491	96	1,365,785	101	110,671	92	1,155,116	106	中国産シェア	53	52	55	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51		
主な生鮮野菜の輸出先(平成29年10月)																											
区分	輸出合計			1位			2位			3位			輸出合計			1位											
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	前年比	国名	数量	国名	数量	国名								
たまねぎ及びシャロット	5,632	533	台湾	3,613	韓国	1,932	オランダ	52	ながいも	286	45	台湾	137	米国	113	シンガポール	33	かぼちゃ	223	253	韓国	156	香港	63	シンガポール	4	
ねぎ	4,404	78	中国	4,404					ごぼう	4,185	89	中国	4,150	台湾	36				ジャパンボピーマン	2,798	79	韓国	1,575	オランダ	954	ニュージーランド	254
ジャパンボピーマン	2,798	79	韓国	1,575	オランダ	954	ニュージーランド	254	かぼちゃ	2,049	100	ニューカレドニア(仏)	1,995	トンガ	24	米国	19	アスパラガス	1,524	83	豪州	1,375	メキシコ	119	タイ	14	
アスパラガス	1,524	83	豪州	1,375	メキシコ	119	タイ	14	にんにく	1,517	102	中国															